

# 設備のメンテナンスとフロン排出抑制法対応をリンク

## ～ダイキンエアテクノの空調機器サービス～

### 他社製品や特殊なニーズにも対応

マッシュルームの適正な栽培環境は、秋の森の朝、つまり気温18℃、湿度85%で、これを通年維持する必要があります。当社では1974年に栽培を開始しましたが、空調機器が非常に高価だった時代から実験的に導入、収穫の端境期を埋めることに挑戦しました。

83年に会社化した時には、すべての栽培ハウスに空調設備を設置しています。ただ、正直、かなり過酷な使い方だったと思います。コンプレッサーは回りっぱなし。ホコリも多く、熱交換率が落ちる。水冷式でしたが、水の管理も上手くできていない。自分たちは農業生産者であり、マッシュルームを作るのが仕事、という意識でした。メンテナンスにまで考えが及ばず、壊れたら修理するというスタンスだったと思います。

幸い、メンテナンスができる方が近くにおられ、社員になってもらい、維持・管理をお願いしました。専門メーカーのサービスマンも驚くほどの対応力を持った方でしたが、何分にも自己流で、結果的には機器が属人化してしまい、その方が退職されると一度に10台の機器を交換する必要に迫られました。これでは経営にも影響します。そこで、壊れたら修理するという考えから、耐用年数や部品交換時期などを踏まえ、日常的にメンテナンスするという考えに変わっていきました。その頃に、ダイキンエアテクノとの



三蔵農林 代表取締役 片岡信之氏



農場空撮全景

### 【会社概要】

社名 有限会社三蔵農林  
設立 昭和58年9月  
従業員数 338名  
所在地 岡山県瀬戸内市牛窓町鹿忍3481  
(業務用空調機器 約120台を保有)

出会いがあり、当社の方向性とマッチしたのです。

現在では、栽培ハウスなど60棟以上の施設があり、それぞれに多くの空調・冷蔵機器が入っています。ダイキン工業製品以外の他社製品もありますが、ダイキンエアテクノは専門のエンジニアリング会社ですので、他社製品でも対応し、他社ではできないと言われたカスタム化にも応えてくれます。人間は、空調の温度に2℃の差異が生じても問題ありませんが、キノコにとっては大変な環境変化です。たとえば、半日の空調トラブルでも、キノコには何週間分ものダメージが残るかもしれません。それでは、とても栽培には使えません。ダイキンエアテクノは、そうした特殊なニーズにも応えてくれました。

### 使用機器の状態をすべて「見える化」

かつては業務用の顧客が多かったマッシュルームですが、今ではスーパーにも

必ず置かれ、消費者がお客様です。そういう存在になった以上、安定生産・安定供給を果たすことは当社の責任です。万一、欠品などを出してしまえば、お客様はついてきてくれません。

当社は岡山にあり、名古屋以西は高いシェアを有してきました。最近では、首都圏での需要が拡大し、東京・大田市場でのシェアも50%を超えています。ただ、距離的に離れており、アフターケアには弱みがあります。その弱みを克服するには、高品質の商品を注文通り、安定的に供給することが大前提です。栽培のタイミングを管理する空調コントロールは、従来に増してシビアになっています。

昨年4月、フロン排出抑制法が施行されました。ダイキンエアテクノのサービスマンからは、早い段階で情報を頂いていましたが、大企業ユーザーはともかく、法律ができたからといって即応できにくい面もあります。ただ、当社は地球

に優しい循環型農業で高品質のマッシュルームを全国に提供し、地元にも300人を超える雇用を提供している企業でもあります。多数の空調機器を運用する以上、根本的に考えなければならない課題でした。

もともと、専門的な定期点検はダイキンエアテクノにお願いし、当社でできることはアドバイスを受けながら実施する、という役割分担ができていました。フロン排出抑制法施行で、フロン使用機器のユーザーにも点検・記録・報告義務が課されるようになりましたが、ダイキンエアテクノからはメンテナンスとリンクさせることで、使用機器の状態をすべて「見える化」として提案いただきました。マッシュルーム安定生産の必要条件である点検プロセスの中に、フロン対応が入ってきたイメージで、違和感はありません。

### 企業特性を踏まえた視点で提供

保守契約を結び、昨年12月から毎月10台の機器の定期点検をお願いしています。1年間で120台の機器すべてを点検し、点検・整備記録簿という形でデータベース化してくれます。社員の頭の中に「何号機の調子が悪い」という記憶を残すのではなく、「何号機はどのように点検・整備されている」という記録が残ります。当社にとって、空調機器は重要なインフラであり、それが何事もなく稼働するのは一見当たり前のようですが、実は最も大切なことなのです。

もちろん、契約締結にいたった背景には、過去何年もかけて築き上げた信頼関係があります。当社の事業を取り巻く領域で、空調関係はもちろん、周辺の課題にもハード・ソフト両面からアイデアを出し、解決のためのキャッチボールができていたのが決め手です。当社の特性を踏まえ、足を運び、一緒に考え、新たな視点を提供してくれる。だからこそ、当社は高品質のマッシュルームを安定的に生産することに専念できるのです。



ハウス内マッシュルーム

## 法規制対応にとどまらないシームレスなサービス

ユーザーに管理義務を求めるフロン排出抑制法が施行されて丸1年。ダイキンエアテクノが開催するセミナーには多くの参加者が集まり、企業の高い関心を物語っている。

フロン排出抑制法対策として、ダイキンエアテクノが提唱しているポイントは3つ。①機器リスト(設備管理台帳)を作る、②仕分けする、③まわりを巻き込む(担当者を決め、体制を作る)ということであり、これらに対応するサービス・メニューを整えている。

まず、機器リスト(設備管理台帳)の作成。ユーザー事例で紹介した三蔵農林のように複数のメーカーの機器を数多く運用するユーザーに対して、空調関連にとどまらず、事業領域の広範な課題に最適なソリューションを提供している。空調機器の最適化には、工事を伴う場合も多く、そうした観点に立って設備管理台帳を作成してくれる。



サービスマン点検風景

仕分けには、計画的な点検やR22冷媒使用機器の更新といった中長期的視野が不可欠。フロン排出抑制法では、ユーザーでも行える簡易点検と冷媒フロン類取扱技術者などの有資格者が行う定期点検があるが、ユーザーのニーズに応じたサービスを提供している。定期的なメンテナンスは、消費電力抑制などのランニングコストの軽減にもつながり、ユーザーが享受できるメリットは大きい。また、空調機器故障の7割は事前予知が可能と言われる。ダイキンエアテクノでは、24

時間365日の空調機器オンライン診断・監視を行う「エアネットサービス」も提供している。

単なるフロン排出抑制法対応でなく、コスト削減や安定稼働にも資するシームレスなサービスが、ダイキンエアテクノの強みだ。

【問い合わせ】  
ダイキンエアテクノ株式会社  
東京都墨田区両国2-10-8  
住友不動産 両国ビル  
☎0120・63・1191(平日9:00~17:30)